

## IPMモデル地区農業者アンケート結果(Y県みかん)

平成18年10月20日

**[アンケート回答者の状況]**

・アンケートは、食の安全安心確保交付金事業を活用してIPM普及推進に取り組んでいる地域の生産者にアンケート用紙を配付する方法でH18年9月に実施した。

アンケート回答者は、118名の配付数に対して118名と、回収率100%であった。

**[IPMの取組]**

・病害虫や雑草が発生しにくい環境を整えるため取り組んだ内容は、96%がその他の項目（廃園の伐採 73、冬期・春期のマシン油の散布 113、被害枝の切除 13、ナギナタガヤ早生栽培 25）であった。

・防除をするしないの判断については、ほ場での発生調査が34%、普及員の指導が16%であった他、営農指導員の指導が15%であった。

・防除への取組では、物理的防除、確実な農薬散布、注意飛散に注意が同程度であった。

・病害虫防除作業や農薬使用履歴記帳については、67%がIPM実践指標以外の記帳を、31%がIPM実践指標記帳に取り組んでおり、あわせて、99%は何らかの記帳に取り組んでいる。

**[IPMの取組結果]**

・病害虫・雑草の発生を抑えることができたかどうかという問いに対しては、29%が効果があったとした一方で、24%が効果がなかった、47%が変わらないという結果であった。

・防除等の作業時間、資材費については、大半が変わらない（72%）という意見であったが、中には、作業時間が減った（約19%）、作業費が減った（15%）という事例もあった。

・収穫物についても、大半が変わらない（80%）という意見であったが、中には、少数意見だが収量が増えた（2%）、見た目が良くなった（18%）、価格が高くなった（1%）という事例もあった。

・化学農薬を散布する回数については、イチゴでは、79%が減ったとしたが、みかんでは、84%が変わらないという結果であった。

**[その他]**

・IPMに取り組んでみて良かったこととしては、約半数が防除技術の習得や指導が受けられたことをあげた他、みかんでは30%病害虫の発生源を減らすことができたことを上げている。

・IPMが今後広く普及するためには、約半数の人が農産物が高価格で、安定的に売れることを上げている。

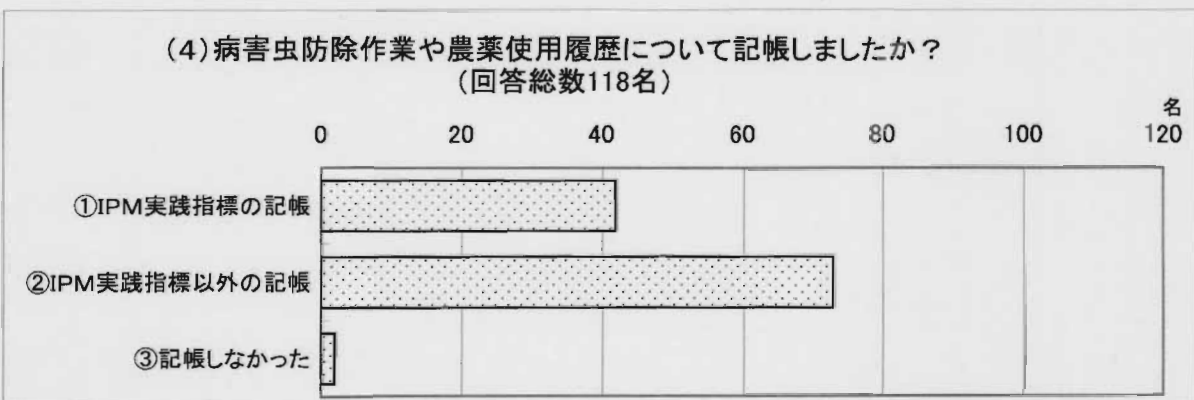
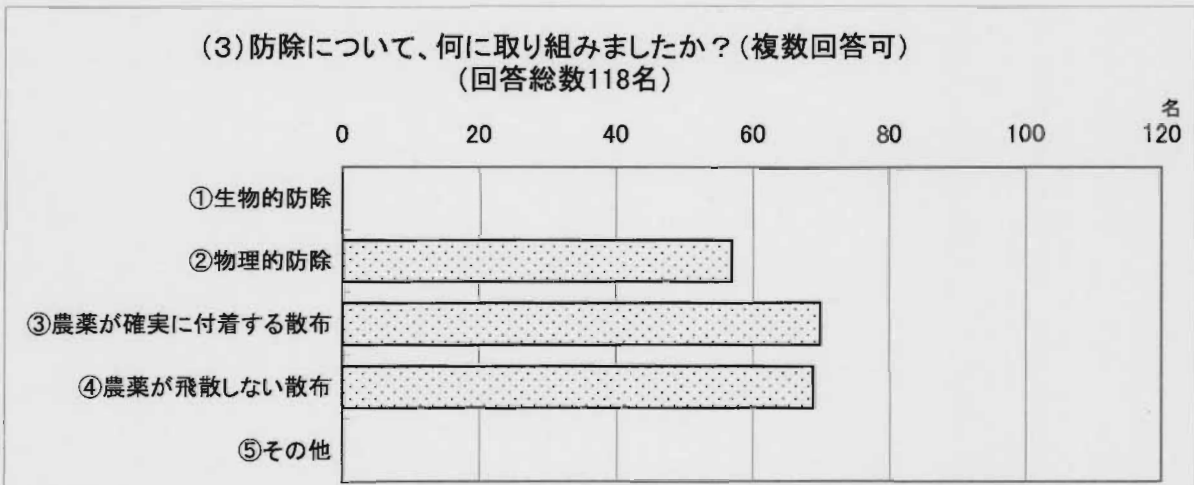
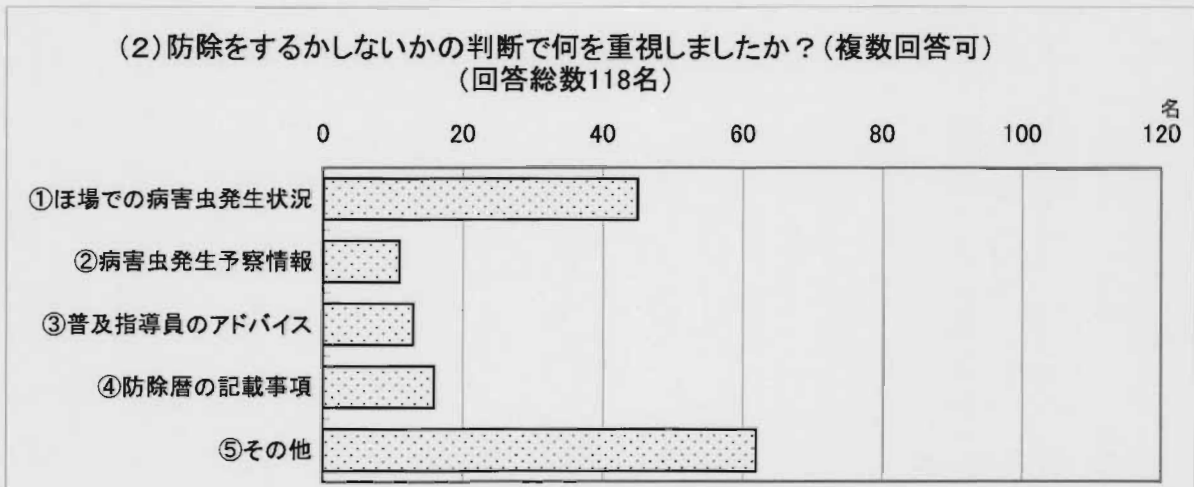
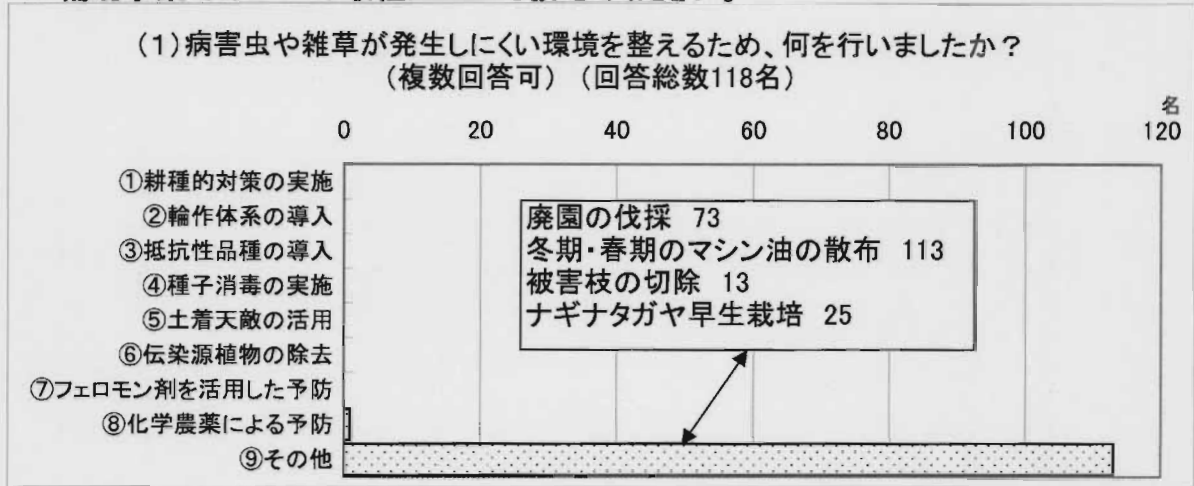
・病害虫防除作業や栽培履歴記帳については、60%が積極的に取り組んでいる、38%がJAの指導により記帳していると、あわせて、98%は何らかの記帳に取り組む意欲が見られる。

・IPMに取り組む上では、普及センターや防除所、JAが相談窓口となっているようである。

・IPMに取り組む上で困ったこととしては、情報が少ない。高齢化等で作業に負担がかかっている。難防除害虫が増えているなどに意見があげられた。

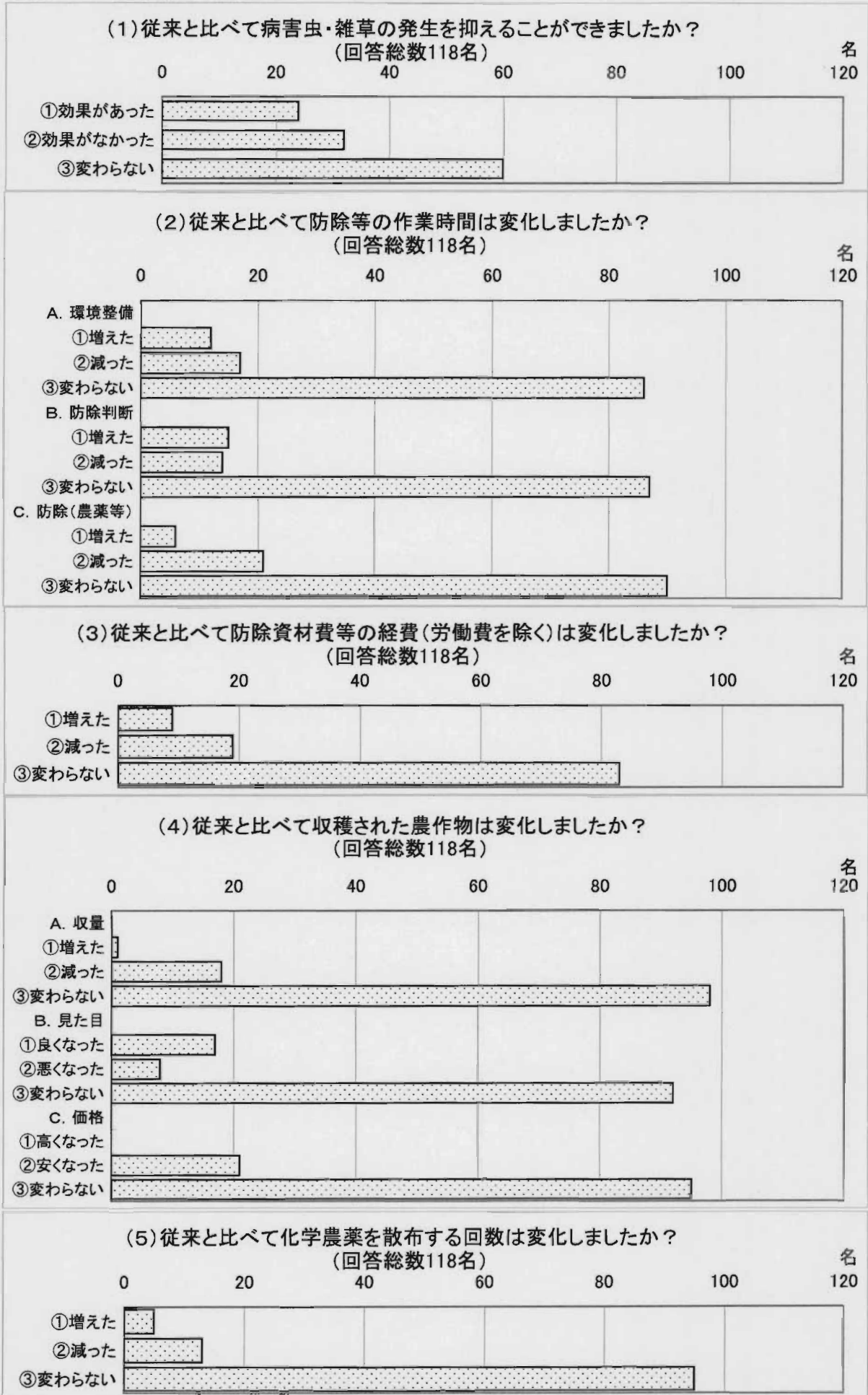
# IPMモデル地区農業者アンケート結果(Y県みかん)

## 1. 補助事業でのIPMの取組について教えてください。



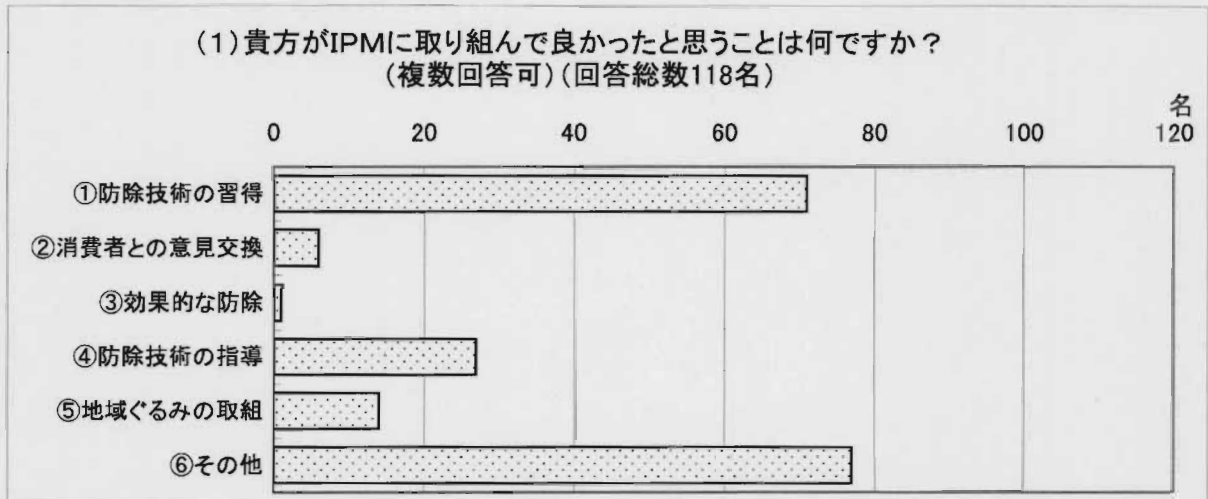
# IPMモデル地区農業者アンケート結果(Y県みかん)

## 2. IPMに取り組んだ結果について教えてください。

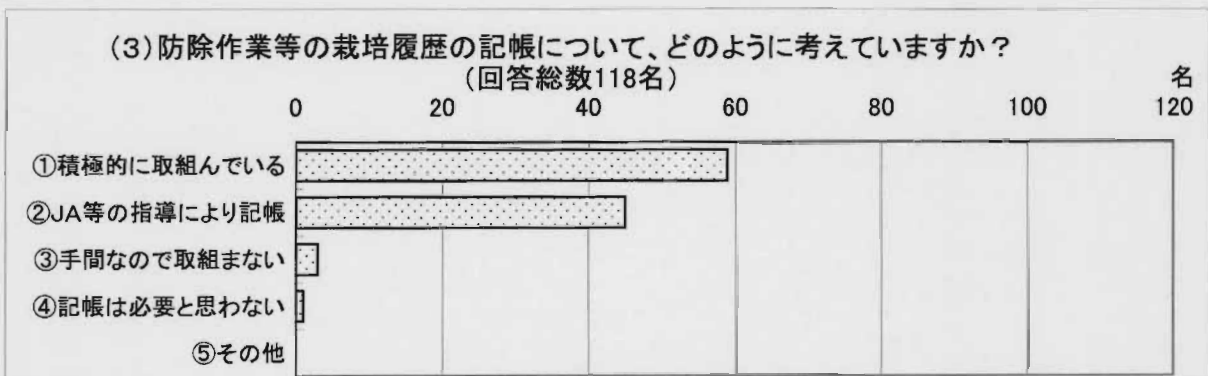
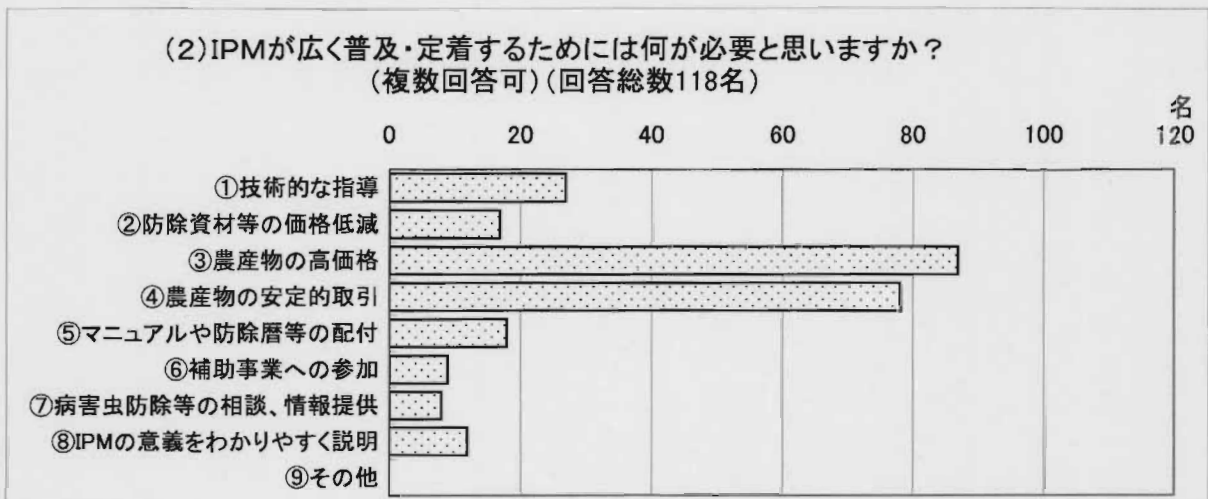


# IPMモデル地区農業者アンケート結果(Y県みかん)

## 3. その他



[その他] 病虫害発生源の削除に取り組めた 76



[その他] 簡単に記帳できる方法はないのか

(4) 最後に、IPMを行う上で困ったことはありませんか？相談できる場所がありますか

- 普及所、農協、試験場
- 病虫害の防除が難しくなった。(高齢化、難防除等)
- 情報が少ない
- 栽培が難しくなった
- 除草が間に合わない
- 作業が遅くなる。(高齢化等)

## IPMモデル地区農業者アンケート結果(K県施設イチゴ)

平成18年10月20日

## [アンケート回答者の状況]

- ・アンケートは、食の安全安心確保交付金事業を活用してIPM普及推進に取り組んでいる地域の生産者にアンケート用紙を配付する方法でH18年9月に実施した。
- ・アンケート回答者は、33名の配付数に対して20名と、回収率61%であった。

## [IPMの取組]

- ・病害虫や雑草が発生しにくい環境を整えるため取り組んだ内容は、1名が化学農薬による予防と答えた他は特に取組はなかった。
- ・防除をするしないの判断については、ほ場での発生調査が34%、普及員の指導が16%であった他、営農指導員の指導が15%であった。
- ・防除への取組では、イチゴでは、全ての回答者が生物的防除及び物理的防除に取り組んでいると回答している。
- ・みかんでは、物理的防除、確実な農薬散布、注意飛散に注意が同程度であった。
- ・病害虫防除作業や農薬使用履歴記帳については、67%がIPM実践指標以外の記帳を、31%がIPM実践指標記帳に取り組んでおり、あわせて、99%は何らかの記帳に取り組んでいる。

## [IPMの取組結果]

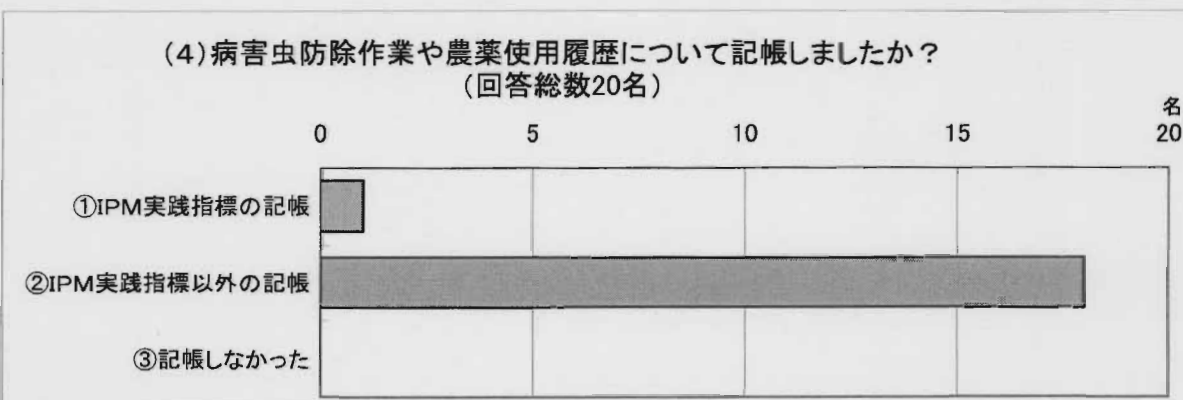
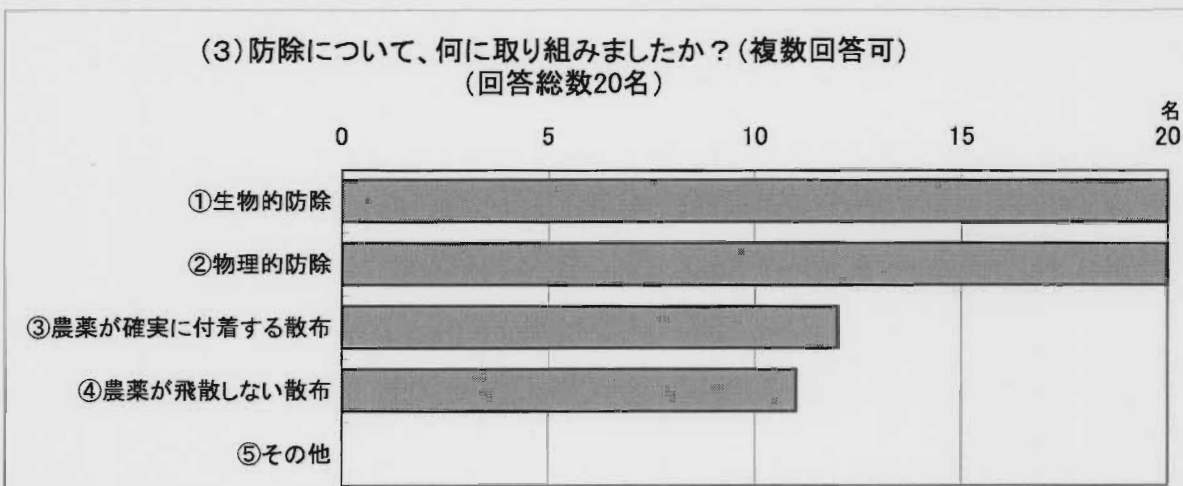
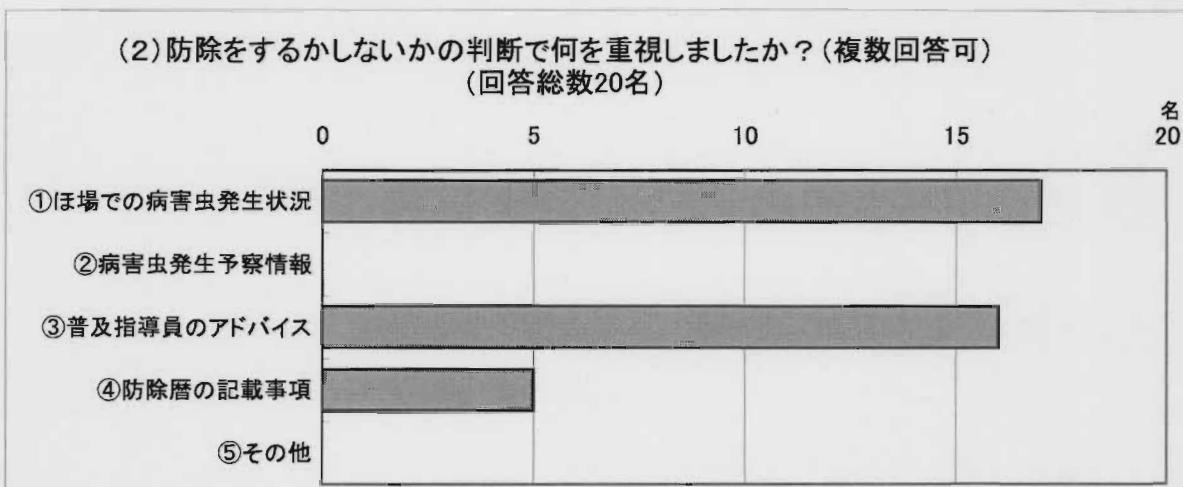
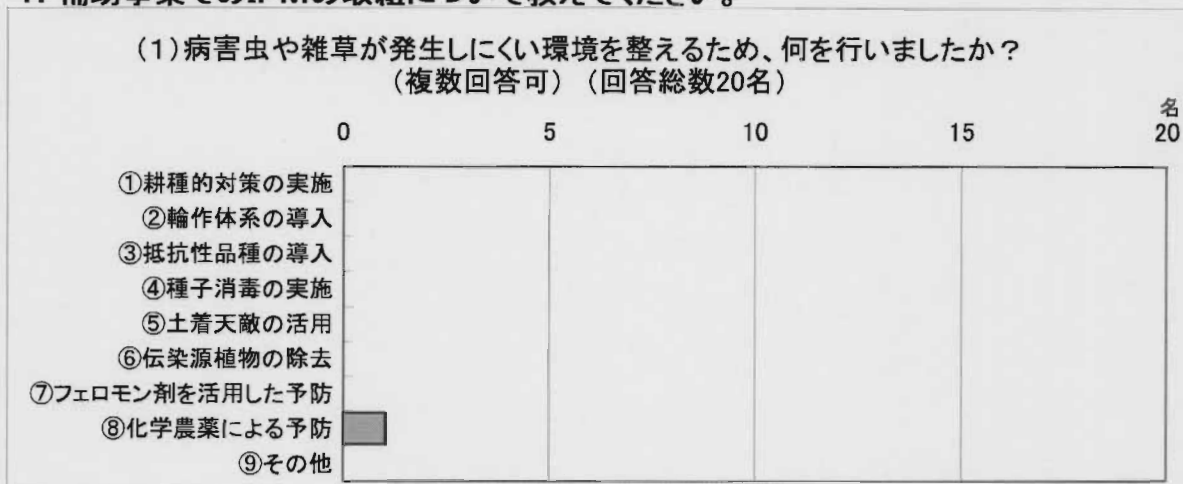
- ・病害虫・雑草の発生を抑えることができたかどうかという問に対しては、29%が効果があったとした一方で、24%が効果がなかった、47%が変わらないという結果であった。
- ・防除等の作業時間、資材費については、大半が変わらない(72%)という意見であったが、中には、作業時間が減った(約19%)、作業費が減った(15%)という事例もあった。
- ・収穫物についても、大半が変わらない(80%)という意見であったが、中には、少数意見だが収量が増えた(2%)、見た目が良くなった(18%)、価格が高くなった(1%)という事例もあった。
- ・化学農薬を散布する回数については、イチゴでは、79%が減ったとしたが、みかんでは、84%が変わらないという結果であった。

## [その他]

- ・IPMに取り組んでみて良かったこととしては、約半数が防除技術の習得や指導が受けられたことをあげた他、みかんでは30%病害虫の発生源を減らすことができたことを上げている。
- ・IPMが今後広く普及するためには、約半数の人が農産物が高価格で、安定的に売れることを上げている。
- ・病害虫防除作業や栽培履歴記帳については、60%が積極的に取り組んでいる、38%がJAの指導により記帳していると、あわせて、98%は何らかの記帳に取り組む意欲が見られる。
- ・IPMに取り組む上では、普及センターや防除所、JAが相談窓口となっているようである。
- ・IPMに取り組む上で困ったこととしては、情報が少ない。高齢化等で作業に負担がかかっている。難防除害虫が増えているなどに意見があげられた。

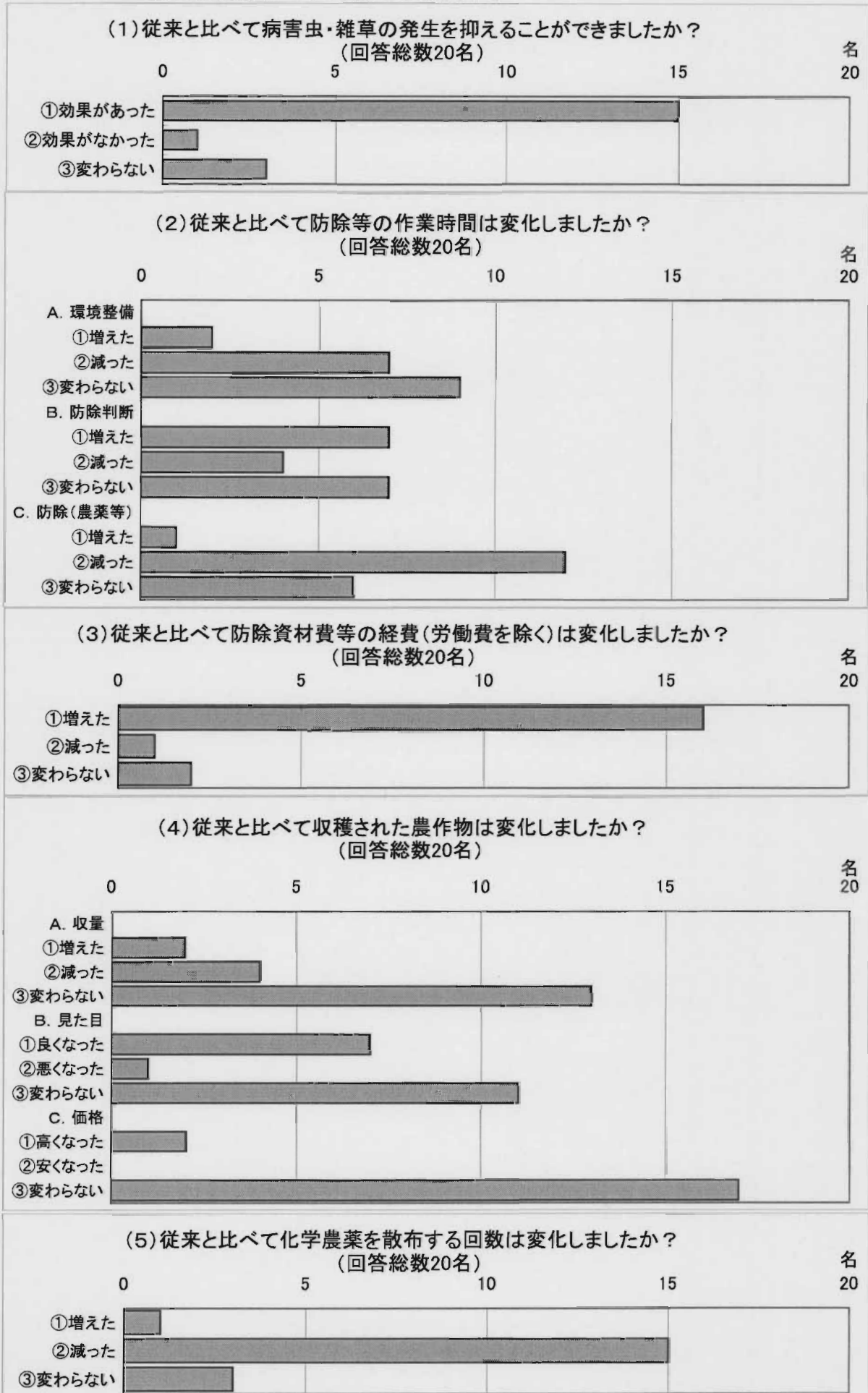
# IPMモデル地区農業者アンケート結果(K県施設イチゴ)

## 1. 補助事業でのIPMの取組について教えてください。



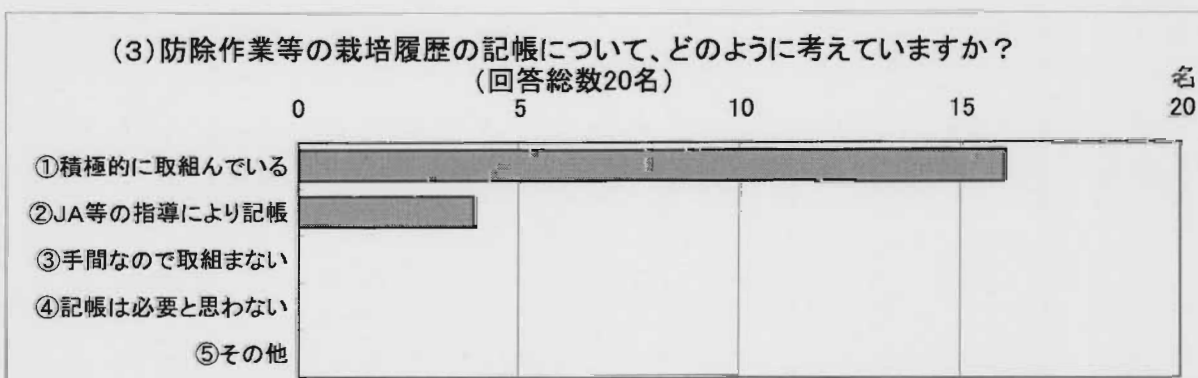
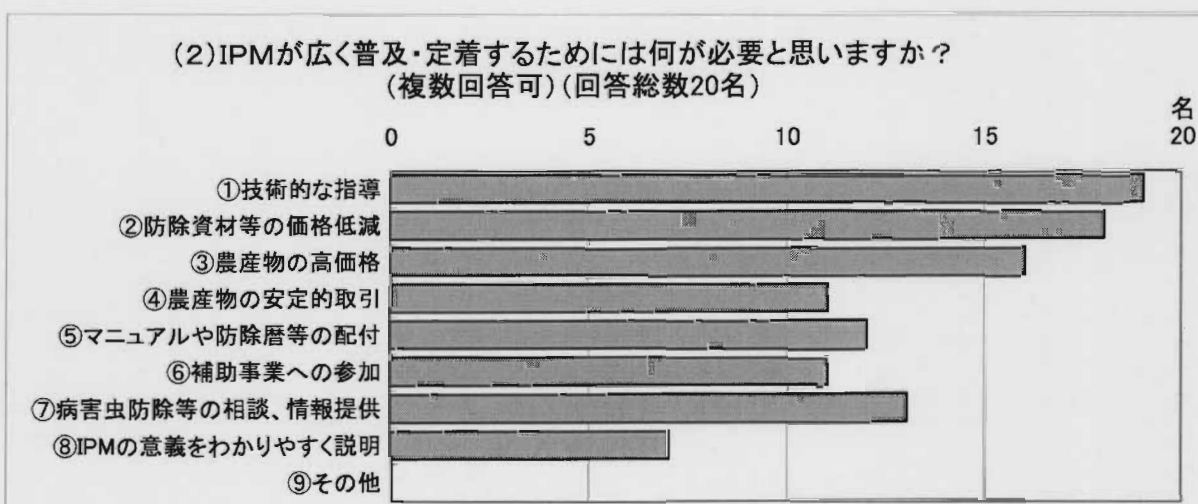
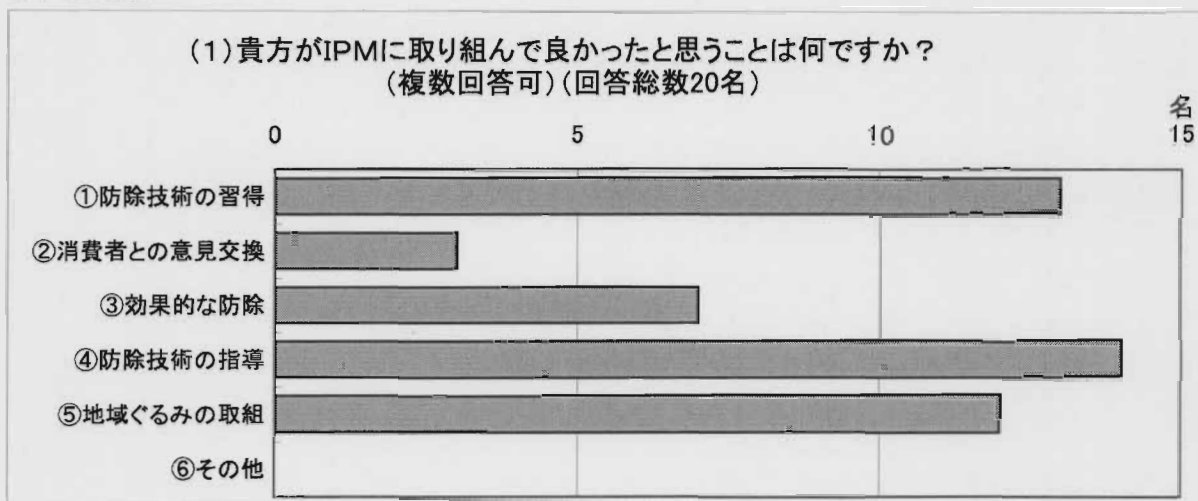
## IPMモデル地区農業者アンケート結果(K県施設イチゴ)

### 2. IPMに取り組んだ結果について教えてください。



## IPMモデル地区農業者アンケート結果(K県施設イチゴ)

### 3. その他



- (4) 最後に、IPMを行う上で困ったことはありませんか？相談できる場所がありますか
- 普及所、農協、試験場
  - 病害虫の防除が難しくなった。(高齢化、難防除等)
  - 情報が少ない
  - 栽培が難しくなった
  - 除草が間に合わない
  - 作業が遅くなる。(高齢化等)